

「千兩箱が七十五とは、是れは恐れ入りますなア」

「フム、夫れは一體如何なるのや」

「——」

「マア旦那さん何を仰言しやる、千兩と云ふのは向方から呉れますねがな」

「旦那さんでは千兩位とおつしやるが、我々では千兩と申しましたら大した物で、何と御無體が願へんもんでしようか」

「一步で……」

く、それ上げましょ」

「イヤ、そろいらん、當つた所で謹か千兩位邪魔臭い」